

台風・強風雨通過後の野菜類等の対策について

令和元年10月16日
常陸太田地域農業改良普及センター

大型で勢力が大きい台風19号が経過しました。

強風により茎葉が傷害を受けると、そこから病原菌が入りやすくなります。殺菌剤による予防と樹勢回復のため葉面散布等を実施してください。※(令和元年10月9日 農薬確認)

花き類・きく

○強風が通過した後は、雨で跳ね返った土が葉に付着しており、また、風で葉が痛んでいるため、病気がとても入りやすい状況になっています。雨と風が収まったら、速やかに殺菌剤散布を行なって下さい。

登録作物名	薬剤名	適用病害虫名	希釈倍数 散布液量	使用時期	本剤の 使用回数	有効成分名・成分 の総使用回数
花き類・観葉植物 (ばら, きく, チューリップ, ゆり, りんどうを除く)	ダコニール1000	うどんこ病	1000倍	—	6回以内	TPN 6回以内
きく		褐斑病・黒斑病				

野菜類(未成熟豆類含む)

○冠水した場合は、強風通過後の高温により蒸れ、根腐れによる被害が発生するため、排水に努めて下さい。

○風によって傷がついた茎葉は病気が発生しやすいので、**殺菌剤による予防と回復のための葉面散布を行なうと効果的です。**

○強風によりネギが倒された場合は、葉しょうの曲がりを防ぐため、速やかに起こすようにしましょう。

登録作物名	薬剤名 (有効成分名)	適用病害名	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数	有効成分名・成分の総 使用回数
野菜類	Zボルドー	褐斑細菌病 黒腐病 軟腐病 斑点細菌病 べと病	500倍	—	—	塩基性硫酸銅 制限なし
	クプロシールド	軟腐病 斑点細菌病 べと病	1000～1500倍 1000～2000倍	—	—	
きゅうり	ゲッター水和剤	褐斑病 菌核病 炭疽病 灰色かび病	1500倍	収穫前日まで	5回以内	ジエフェンカルブ 5回以内 チオファネートメチル 6回以内(但し、種子への処理は 1回以内、は種後は5回 以内)
トマト ミニトマト	Zボルドー	疫病 輪紋病 すすかび病	400～600倍 500倍	—	—	塩基性硫酸銅 制限なし

※上記、いずれの薬剤も葉害を避けるため、高温時の散布は避けましょう。

注意

軟弱野菜に銅水和剤(Zボルドー等)を使用する場合は、葉害防止のため下記薬剤を併用して下さい。

※散布後、やや白くなるので、出荷直前・果実肥大開始後の使用は避けて下さい。

薬剤名	作物名	希釈倍数	使用方法	本剤の 使用回数	使用目的	有効成分名・ 成分の総使用回数
クレフノン	野菜類	100～200倍	銅水和剤に混用 して散布	—	銅水和剤による葉害の軽減	炭酸カルシウム 制限なし

※有効成分ごとに栽培中の総使用回数をカウントし制限します。

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにして下さい。

※農薬散布時には、風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行ないましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換してドリフトによる残留基準値がオーバーしないようにすることが重要です。

ナシの風害対策(台風通過後対策)について(栽培後期)

令和元年 10月 16日
常陸太田地域農業改良普及センター

○大型で勢力が大きい台風19号が経過しました。

○強風・大雨によって、茎葉が傷害を受けると、そこから病原菌が侵入しやすくなります。早期落葉すると、来年にも影響しますので、殺菌剤を散布して下さい。成分ごとの使用回数に十分注意して下さい。

○枝が折損した場合は、折損部で剪除し、保護剤を塗布して下さい。

※殺菌剤を施用し、傷口からの病害の感染を防止して下さい。

(参考登録農薬)

※(令和元年10月9日 農薬確認)

登録作物名	薬剤名	対象病害虫 使用目的	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の 使用回数	有効成分名・ 成分の総使用 回数	
ナシ	トップジン M水和剤	うどんこ病 黒星病	1500～ 2000倍	散布	収穫前日 まで	6回以内	チオファネートメチル 11回以内(但し、塗布は3回以内、休眠期の散布は1回以内、灌注は1回以内、生育期の散布は6回以内)	
	トップジン Mペースト	切り口及び 傷口のゆ合 促進	原液	塗布	剪定整枝 時、病患 部削り取 り直後、 及び病枝 切除後	3回以内		
	ストロビー ドライフロ アブル	炭疽病 うどんこ病 黒斑病 輪紋病 黒星病	炭疽病	2000倍	散布	収穫前日 まで	3回以内	クレキシムメチル 3回以内
			うどんこ病	2000～ 3000倍				
			黒星病	3000倍				
	アミスター 10フロア ブル	うどんこ病 炭疽病 黒星病 黒斑病 輪紋病	うどんこ病	1000倍	散布	収穫前日 まで	5回以内	アザキシトピベン 5回以内
炭疽病			1000～ 1500倍					
バッチレー ト	胴枯病 傷口のゆ合 促進	胴枯病	原液	剪定枝の 切り口、病 患部の削 除跡に塗 布	剪定時及 び病患部 削り取り 直後	3回以内	有機銅 12回以内(但し、塗布は3回以内、散布は9回以内)	
		傷口のゆ合 促進						

※ 有効成分ごとに栽培中の総使用回数をカウントし制限します。

※ 参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにして下さい。

※ 農薬散布時には、風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行ないましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換してドリフトによる残留基準値がオーバーしないようにすることが重要です。

ブドウの風害対策(台風通過後対策)について

令和元年 10 月 16 日

常陸太田地域農業改良普及センター

○大型で勢力が大きい台風 19 号が経過しました。

○強風・大雨によって、茎葉が傷害を受けると、そこから病原菌が侵入しやすくなります。早期落葉すると来年にも影響しますので、殺菌剤を散布して下さい。成分ごとの使用回数に十分注意してください。

○枝が折損した場合は、折損部で剪除し、保護剤を塗布して下さい。

※殺菌剤を施用し、傷口からの病害の感染を防止して下さい。

(参考登録農薬)

※(令和元年 10 月 9 日 農薬確認)

登録作物名	薬剤名	対象病害虫 使用目的	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数	有効成分名・ 成分の総使用 回数
ぶどう	I C ボルドー -48Q	べと病	25~50 倍	—	—	塩基性硫酸銅 制限なし
	Z ボルドー		500~800 倍	—	—	
	トップジン Mペースト	切り口及び傷口の ゆ合促進	原液	剪定整枝時、病 患部削り取り直 後、及び病枝切 除後	3 回以内	チオファネートメチル 5 回以内 (但 し、塗布は 3 回 以内、休眠期の 散布は 1 回以 内、生育期の散 布は 1 回以内)

※ 有効成分ごとに栽培中の総使用回数をカウントし制限します。

※ 参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにして下さい。

※ 農薬散布時には、風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行ないましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換してドリフトによる残留基準値がオーバーしないようにすることが重要です。

カキの風害対策(台風通過後対策)について

令和元年 10 月 16 日

常陸太田地域農業改良普及センター

○大型で勢力が大きい台風 19 号が経過しました。

○強風・大雨によって、茎葉が傷害を受けると、そこから病原菌が侵入しやすくなります。早期落葉すると来年にも影響しますので、殺菌剤を散布して下さい。成分ごとの使用回数に十分注意してください。

○枝が折損した場合は、折損部で剪除し、保護剤を塗布して下さい。

※殺菌剤を施用し、傷口からの病害の感染を防止して下さい。

(参考登録農薬)

※(令和元年 10 月 9 日 農薬確認)

登録作物名	薬剤名	対象病害虫 使用目的	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の 使用回数	有効成分名・ 成分の総使用 回数
カキ	アミスター 10フロア ブル	うどんこ病 黒点病 すす点病 炭疽病 落葉病	1000 倍	散布	収穫 7 日前ま で	3 回以内	アゾキシトピベン 3 回以内
	トップジン M水和剤	うどんこ病 すす点病 炭疽病 落葉病 黒星落葉病	1000～ 1500 倍	散布	収穫前日まで	6 回以内	チオファネートメチル 10 回以内 (但 し、塗布は 3 回 以内、休眠期の 散布は 1 回以 内、生育期の散 布は 6 回以内)
	トップジン Mペースト	切り口及び 傷口のゆ合 促進	原液	塗布	剪定整枝時、 病患部削り取 り直後、及び 病枝切除後	3 回以内	
	バッチレー ト	傷口のゆ合 促進	原液	剪定枝 の切り 口、病患 部の削 除跡に 塗布	剪定時及び病 患部削り取り 直後	3 回以内	有機銅 8 回以内 (但 し、塗布は 3 回 以内、散布は 5 回以内)

※ 有効成分ごとに栽培中の総使用回数をカウントし制限します。

※ 参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにして下さい。

※ 農薬散布時には、風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行ないましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換してドリフトによる残留基準値がオーバーしないようにすることが重要です。

ウメの風害対策(台風通過後対策)について

令和元年 10 月 16 日

常陸太田地域農業改良普及センター

○大型で勢力が大きい台風 19 号が経過しました。

○強風・大雨によって、茎葉が傷害を受けると、そこから病原菌が侵入しやすくなります。早期落葉すると来年にも影響しますので、殺菌剤を散布して下さい。成分ごとの使用回数に十分注意して下さい。

○枝が折損した場合は、折損部で剪除し、保護剤を塗布して下さい。

※殺菌剤を施用し、傷口からの病害の感染を防止して下さい。

(参考登録農薬)

※ (令和元年 10 月 9 日 農薬確認)

登録作物名	薬剤名	対象病害虫 使用目的	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の 使用回数	有効成分名・ 成分の総使用 回数
小粒核果類	トップジン Mペースト	切り口及び 傷口のゆ合 促進	原液	塗布	剪定整枝 時、病患部 削り取り 直後、及び 病枝切除 後	3回以内	すももは6回 以内(但し、塗 布は3回以内、 休眠期の散布 は1回以内、生 育期の散布は3 回 以内)、その他 の小粒核果類 は6回以内(但 し、塗布は3回 以内、散布は3 回以内)
うめ	バッチレー ト	傷口のゆ合 促進	原液	剪定枝の 切り口、 病患部の 削除跡に 塗布	剪定時及 び病患部 削り取り 直後	3回以内	有機銅 3回以内

- ※ 有効成分ごとに栽培中の総使用回数をカウントし制限します。
- ※ 参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにして下さい。
- ※ 農薬散布時には、風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行ないましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換してドリフトによる残留基準値がオーバーしないようにすることが重要です。